

# 間違わない補聴器の選び方・着け方(1)

博士補聴器 代表 由井 宏知

## 【編集部より】

「間違わない補聴器の選び方・着け方」は、2015年に連載され、ご好評をいただきました。今回その続編として、「聞こえ」にお困りの方やそのご家族に向けて、補聴器や聞こえに関する知識と情報を分かりやすく発信していきます。読者の皆様からも不明点をお気軽にお寄せいただければ幸いです。お問合せ、ご相談は、電話またはメールでお願いいたします。

## 【再開・第1回】

# 補聴器のはじめどき

補聴器というのは実際ご自身がその問題に直面するまで日常生活では関わりが少ないものかも知れませんが、先天的な難聴、事故や病気による突如の難聴であれば、必要になるタイミングは分かりにくいものです。



多種多様な補聴器

米国の非営利専門機関ベターヒアリングインスチテュートが調査したところ、聞こえに不自由さや悩みを持ち始めてから、実際に補聴器を購入しようとするまでは「平均して13年間かかる」という結果が出ています。

しかし長い期間聞こえにくいまま過ごすうちに聴力だけでなく脳や精神面も徐々に変化することがわかってきており、近年の研究では難聴と認知症やうつ病との関連性が明らかになってきました。また、言葉を理解する力の維持や

TEL/FAX 047-492-6333  
mail: hakase@drhearing.jp

補聴器の扱いに慣れるためにも、聞こえに不調を感じたら放置せずに早めに行動を起こすことをお勧めします。

以下にチェック項目を用意しました。思い当たることがあれば、医師や補聴器店にご相談ください。

### 聞こえのチェック項目

- 二人以上の人が同時に話し始めるとよく聞き取れなくなる
- 自動車の中での話がよく聞き取れない
- 最近、周囲の人の話がモゴモゴとはっきりしないように感じる
- 家族や知人が、「補聴器をつけてみたらよいのでは？」と考えているようだ
- 相手にもう一度繰り返して言っしてほしいと頼んだり、推測して判断することがある
- TVドラマのセリフがよく聞き取れない
- 携帯電話の呼び出し音が気づかないことがある
- 集会、会議、授業などで、

話の内容がわからなくて困る  
その他にもご家族が大きな声で話しかけるため、ご本人は十分聞こえていると勘違いしており周囲の人が不自由しているケースもあります。

**不安があればまずは耳鼻科へ**

一括りに難聴と言っても、様々な原因があります。加齢性の難聴のように回復が難しいものもあれば、処置すれば改善するものもあります。特に、突然聞こえにくくなった場合はできるだけ早めに医師の診断を受けることをお勧めします。

**信頼できる補聴器のお店へ**  
そして、いざ補聴器を検討する際になったら信頼できる補聴器店をお選びください。補聴器は買って終わりではなく、装着や音への慣れ、その後の調整や効果測定、点検修理等が必要です。聴力や補聴器をきちんと測定できる設備が整っていると判定、アフターサポートは万全か、修理や点検に対応できるか、納得できる説明をしてもらえるかなどをポイントにお選びいただくのと良いと思います。聞こえに不安を感じたら、お早目にご相談ください。